

日本技術士会創立 60 周年記念大会 第 38 回 技術士全国大会(東京)報告

長井智典

1. はじめに

第 38 回技術士全国大会は、2011 年 8 月 25 日(木)～27 日(土)の 3 日間の日程で、東京にて開催されました。北海道からは、斉藤本部長をはじめ、17 名の技術士が参加しました。

今回は、日本技術士会創立 60 周年記念大会であり、8 月 26 日(金)に行われた記念式典では、秋篠宮殿下のご臨席を賜り厳かに執り行われました。

以下に大会の内容を報告いたします。

2. 大会の概要

(1)大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは「地球再生へのメッセージ～世界・アジア・日本における技術士の役割～」でした。

大会宣言は、JABEE 認定課程修了者のうち最初の技術士会会員である、北陸本部の眞島技術士により宣言されました。内容は次のとおりです。

「私たち技術士は、諸先輩方が築いた伝統を受け継ぎ後世によりよい技術を伝え、高度な応用能力と技術者倫理に基づく科学技術創造立国を推進し、世界に誇る日本の技術力向上に努めます。この記念すべき日本技術士会創立 60 周年の節目に当たり、私たち技術士はその力を結集し、東日本大震災の一日も早い復興に尽力するとともに、自然に対する畏敬の念を持ち、人と自然が共生し、安全で安心して暮らせる社会の実現に向けて行動することを宣言します。」

(2)会場

大会会場は、経団連会館を主会場とし、日本技術士会荳手第二ビル(8/25：第 8 回技術者倫理研究事例発表大会)、日本工営(株)本社(8/25：第 7 回全国防災連絡会議)、東工大蔵前会館(8/27：青年技

術士の集い)の 4 会場で開催されました。



写真-1 経団連会館国際会議場入口

(3)スケジュール

【8月25日(木)】

- ・第 8 回技術者倫理研究事例発表大会
- ・第 7 回全国防災連絡会議

【8月26日(金)】

- ・ポスター発表、パネル展示
- ・事例発表大会
- ・支援活動報告会
- ・記念式典
- ・記念講演
- ・交流パーティー

【8月27日(土)】

- ・青年技術士の集い
- ・テクニカルツアー

3. 全国大会

(1)事例発表大会

今回の全国大会では、テーマに則り世界・アジア・日本で各種の活動を行っている技術士の方々の、具体的な活動事例が発表されました。発表された事例は以下の 6 件です。

■『アジア経済圏形成に向けた APEC エンジニアの挑戦—カンボジア プノンペン経済特別区—』

勝俣技術士(建設部門)

■『水の物理学、化学、生物学からのアプローチとその応用技術による地球再生への道』

杉原技術士(化学部門)

■『葛西臨海公園における生物多様性の現状と漂着ゴミが語る人間多様性～「都市と自然との共生」の再考プロセス提言～』

橋爪技術士(建設部門)

■『資源循環型社会構築と地域活性化を目指す技術士活動「菜の花プロジェクト推進活動の成果」』

久芳技術士(衛生工学部門)

■『安全安心な生活空間づくりに資する減災活動への取り組み』

川原技術士(建設部門)

■『持続可能で幸福な社会を目指した経営工学ビジョンの展開』

武井技術士(経営工学部門)

(2) 支援活動報告会

「東日本大震災に日本技術士会はどう動いたか」と題し、平成 23 年 7 月 11 日(月)に開催されました「第 1 回東日本大震災復興支援報告会～被災地第一次視察報告と支援活動の取組み～」以降の活動を整理し、支援活動報告会が行われました。



写真-2 支援活動報告会スライド

平成 23 年 11 月 15 日(火)には、学士会館(東京都千代田区)において、一般公開として技術士会か

らの提言を目的に、専門分野の総合的な検討を踏まえた復興への問題点と課題への対応について、そしてこれから危惧される首都圏と以西の地震への備えについてシンポジウムが予定されています。

(3) 記念式典

記念式典は、秋篠宮殿下のご臨席とあって式典中の写真撮影、入退室、席の移動、自席での立ち上がりが禁止されました。

厳粛な雰囲気の中、秋篠宮殿下を拍手によりお迎えし、二期会加藤江美女史(ソプラノ)の歓迎の歌「おお愛せよ、お前が愛しうる限り：フランツ・リスト」をもって開会されました。

高橋大会運営委員長より、「技術士会会員の豊富な技術経験と英知を結集して、新たな日本復興へ向け活躍されることを望む」と挨拶があり、続いて内村会長より、「60 年の伝統を尊重するとともに、科学技術の進歩や社会の変化にも対応した次の 60 年へ向けての革新にも取り組む」と式辞が述べられました。

秋篠宮殿下からは、「国民生活の水準を向上させるには、技術士のたゆまぬ研鑽があったと思います。記念大会が実りあるものになると期待するとともに、国内外の要請に応えるため、一層の活躍を期待します」とのお言葉を賜りました。

その後、文部科学大臣(代読)、(独)産業技術総合研究所理事長より祝辞が述べられ、大会宣言、特別表彰が行われました。

(4) 記念講演

記念講演は、アンコール遺跡調査研究の第一人者である石澤良昭氏(上智大学特任教授、前学長)からの講演でした。

【石澤良昭氏 略歴】

1937 年北海道生まれ。1961 年上智大学外国語学部フランス語学科卒業。専門は東南アジア史。第 13 代上智大学学長(2005 年 4 月～2011 年 3 月)。現在、上智大学教授(特任)、上智大学アジア人材養成研究センター所長、上智大学アンコール遺跡国際調査団団長。文学博士。

現在まで 40 数年にわたりアンコール遺跡調査・研究に従事。2011 年にアンコール・ワット近くで発掘した 274 体の仏像は、これまでの学説を塗り替

える大発見となった。2003年国際交流基金賞、2007年カンボジア王国シハモニ国王陛下よりサハメトリ章(大十字勲章)親授。

主な著書：『アンコール：王たちの物語』(NHK出版)、『アンコール・ワットの次代』(連合出版)、『興亡の世界史 東南アジア多文明世界の発見』(講談社)など多数。

講演の題目は、「アンコール・ワットの謎に挑戦」でした。アンコール・ワットとは、1113～1145年頃に建立された寺院であり、建立者はスーリヤバルマン2世で、ビシュヌ神に捧げられたものです。設計構造は、濠(1.3 km × 1.4 km)、西参道(540 m)、三重の回廊、本殿の中央塔(高さ65 m)を中心とした5基の尖塔からなっています。

石澤教授はと題し、冒頭で約1,200もの拓本からその時代の社会を調べられているお話をされました。ヤシの葉に書かれた多数の台帳があった様ですが、虫食いにより残っていないそうです。



写真-3 記念講演の様子1

講演では、アンコール朝は寺院作りが上手であり、春分の日を東西南北から本殿を決めお堀を掘り、掘削土を本殿の盛土としたことや、タイのアユタヤ王朝の文化基盤はカンボジア人の捕虜であったこと、カンボジアの人は物質的に貧しいが心が豊かであり、信仰が厚く、マラリアに強い抗体を持っているなど、普段聞くことが出来ない貴重なお話をされました。スライドでは、芸術的な壁面の浮彫りや回廊、発掘に係る貴重な写真を多数提示され、時間を惜しみつつ閉会となりました。



写真-4 記念講演の様子2

(5) 交流パーティー

交流パーティーは国際会議場向いの経団連ホールで行われました。内村会長挨拶の後、来賓挨拶として斉藤衆議院議員、若井衆議院議員、森口文部科学省文部科学審議官、佐藤国土交通省技監の挨拶があり、鏡開きの後、中西東京大学大学院農学生命科学研究科教授の乾杯によりパーティー開宴となりました。

アトラクションでは、記念式典でも歌われた加藤江美歌手による『乾杯の歌(オペラ「椿姫」より)』や『Summertime(オペラ「ポーギーとベス」より)』などがあり会場を盛り上げました。



写真-5 アトラクション

(6) テクニカルツアー

日帰りのテクニカルツアー(テーマ：「防災」を体験し、「歴史、現代施設」を巡る)として、本所防災館、東京都水道歴史館、東京スカイツリー視察が行われました。本所防災館は、都民に防災知識、技術及び行動力などを、より一層高めてもらうための各種体験学習空間で、平成7年にオープンしました。今回は、煙体験コーナー、消火体験コーナー、応急手

当体験コーナー、地震体験コーナーをインストラクターの案内により体験しました。



写真-6 応急手当体験コーナー

東京都水道歴史館は、東京水道400年の歴史を江戸時代と明治時代以降に分けて、実物大模型や歴史資料、映像を用いて紹介していました。江戸の上水開設から近代・現代水道までを施設ガイドの方の案内により学習しました。写真の馬水槽は、レプリカであり本物はJR新宿駅東口広場にあるそうで、牛馬用・犬猫用・人間用と3つの水飲み場が設けられた水道栓です。



写真-7 馬水槽(レプリカ)

視察の最後は東京スカイツリーです。今回のテクニカルツアーではツリー内部の視察を期待された方が多く、申し込みは早々に定員となったそうです。残念ながらツリー内部の視察はなく、展示ルームでの説明と間近での視察でしたが、世界一の高さに距

離感を失うばかりでした。なお、東京スカイツリーの開業は平成24年5月22日(火)で、開業から1ヶ月半程度は完全予約制となります。お値段は、第1展望台(350m)まで大人2,000円、第2展望台(450m)まで大人1,000円、完全予約期間追加料金500円の合わせて3,500円となります。東京スカイツリーの視察を終え、隅田川の花火大会が開催されるとの事で混雑を避け、早々に帰路につきました。



写真-8 花火大会ポスターと東京スカイツリー

4. おわりに

東日本大震災を踏まえ、今後の復旧・復興に対し技術士、技術者はどうあるべきか考えさせられる大会であったと思います。私個人としては今大会により、秋篠宮殿下のお言葉にもありますように、国内外の要請に応えるべく日々自らを研鑽し、多様な面から社会に貢献しなければならないと、今一度思い返す大会になりました。参加者の皆さんはそれぞれ、色んな思いを持ち帰られたことでしょう。

なお、次々回の第40回技術士全国大会(平成25年度)は札幌での開催となります。会員・会友の皆様に対し、ご支援・ご協力をお願いすることも多々あるかと思いますが、北海道本部の力を結集し成功すべく頑張りましょう。

長井智典(ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人 日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社 ドーコン

